

静岡県土肥町立土肥中学校殿

所在地：静岡県田方郡土肥町土肥2701-1 tel. (0558)98-0246



永岡先生

静岡県田方郡土肥町立土肥中学校は、伊豆半島の西海岸、駿河湾を臨む風光明媚な町にあります。土肥中学校は全校生徒が約180名、1学年2クラス(1クラス約30名)構成ですから、全生徒に先生方の目がしっかり行き届くという、素晴らしい教育環境にあります。3年前にパソコン教室ができ、学校LANを構築。文部科学省指導要綱により学校教育への情報教育の導入が進められていますが、まさにそのモデル校と言える活動が展開されています。



**情報教育に
早くから取り組み、
実践的に活用。**

今回は、土肥中学校に情報教育担当の永岡源一先生をお訪ねし、いろいろお話を伺いました。永岡先生は、静岡県教育研究会の情報教育部の事務局も務めておられます。

土肥中学校では3年前、情報教育を実践

していくためにパソコン教室を設けました。Windows95モデルのパソコンを40台、LANで接続。先生のパソコンから各生徒のパソコンに割り込んで指導できるという本格的なものでした。しかし、先生から生徒へデータを送るための伝送速度が遅く、実用性に少し疑問があったということです。永岡先生としては、それより数年前からご自身の趣味で3管式のプロジェクタを購入し、ホームシアターなどを楽しまれており、学校のパソコン授業でもプロジェクタが使えれば、もっとよい環境になると考えておられたということです。

折から、条件に合う機種(NEC製の投映型フルカラー液晶プロジェクタVL-1000)が見つかり、町教育委員会のご助力もあって1999年の夏に購入が実現。以来、パソコン教育はもちろん、体育館での生徒たちの発表にも活用されています。

Interview

ViewLight CLUB会員である静岡県土肥町立土肥中学校殿をお訪ねし、投映型フルカラー液晶プロジェクタVT440Jをお試しいただきながら、情報教育担当の永岡先生にいろいろお話を伺いました。

土肥中学校は情報教育環境が整っていて、特に永岡先生が中心になっている先駆的な取り組みをされているとお伺いしています。いつ頃からなのでしょう。

永岡先生 パソコン教室ができたのは3年前です。40台のWindowsマシンをLANで接続しました。教師側のパソコンから生徒のパソコンを1台ずつコントロールすることができます。

素晴らしいですね。そんな環境でプロジェクトを導入されたわけですが、中学校ではまだまれなケースではないでしょうか。どうしてプロジェクトなのですか。

永岡先生 はい、LANによるパソコン教室は、それはそれでたいへん素晴らしいことですし、このような環境は静岡県内でも進んでいる方だと思っています。でも、教師側からちょっと重いデータを生徒側に送ろうとしたときの伝送速度に限りがありまして、なんとかならないかと考えていたんです。それに、生徒が何か画面を作成しているときに、教師が割り込んで「これはこうした方がいいよ」とか指導できるんですが、それも気持ちとしてどうか。プロジェクトがあれば、大画面をみんなで同時に見られて問題の共有もできるし、理解度が早められると思ったのです。

でもどうしてプロジェクトがいいと考えられたのでしょうか。

永岡先生 実は数年前から、個人的な趣味でプロジェクトを買って、いわゆるホームシアターを楽しんでいたのです。これが授業の場で使えたらいいなと思ったんです。学校にはビデオを見るプロジェクトはあったんですが、ビデオやパソコンを使い分ける授業をしたかったですし、発表会にも使えたらいいと思っていました。

なるほど。そこでNECの投映型フルカラー液晶プロジェクトVL-1000を購入されたわけですね。どんな基準でお選びになったのでしょうか。

永岡先生 コンパクトで移動が簡単であり、十分明るく高画質であることです。それから、学校で使うことはかなり酷使することになりますから、何かあったときに対応の早いアフターケアが充実したメーカーであることが条件でした。ですからメーカーは問わなかったですね。そこでたまたま条件に合っていたのがVL-1000というわけです。

そうだったんですか。お使いになったの感想をお伺いできますか。

永岡先生 最初、全校生徒が集まる体育館の薄明かりが入る中、ちゃんと映るだろうかと心配したんですが、鮮明にビデオ画面を映し出してくれたので安心しました。パソコン画面の文字も一つ一つはっきりしてましたし。



現在はどのように使われているのでしょうか。

永岡先生 通常の授業では、大画面を利用して行っています。たとえば総合的な学習の時間で、校外調査に出かけたりするときの準備を説明するときとか、パソコンソフトの操作説明をするときなどに役立っています。なにしてる大画面で画像がいいですから、特に美しい教材と一緒に見ていると同じ感動が大きく味わえるような気がします。発端のパソコン教育では、考えた通りでした。生徒の画面に割り込むことなく大画面で説明できるので、一人一人のペース、全体のペースを大切にしながら進めることができるようになりました。

教育現場でVL-1000を駆使していただいているわけですが、ここは改善した方がいいのではと思われることはありませんか。

永岡先生 はい、ビデオとパソコンの切り替えがもっと簡単に早くできるといいなと思っています。生徒たちが発表するとき、もっと自由に操作するためですね。それから、学校現場の特性から言わせていただければ、もっと頑丈で、ビデオとアンプとスピーカが一体化しているといいな。それと、昼間の屋外でもはっきりと見えたら素晴らしいですね。

今回、お試しいただいたのは投映型フルカラー液晶プロジェクトVT440Jですね。いかがでしたか。

永岡先生 従来機と基本的な使い方は同じなのでありがたかったのと、持っていたプロジェクトと借りたプロジェクトの2台をパソコン用とビデオ用にして同時に使えたのが効果的で、とてもよかったです。それに加えて、以前よりかなり明るくなったしコンパクトになったし、使いやすくなっています。この間の進歩に驚いています。カーテンを開けていても十分明るいです。こうしてみると、今後、プロジェクトは学校教育用機材の中心になっていくんじゃないでしょうか。実感として思いますね。

Key word

- 一斉に見て同時に理解し感動が共有できる
- プロジェクタに理解ある先生のアイデアから、授業へ応用活用
- 複数の画面が必要“先生の説明用と生徒の作業用”“ビデオ用とパソコン用”